第３学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

１　主題名　友だちを思って　　　　Ｂ　友情、信頼

　　教材名　「さと子の落とし物」　出典　日本文教出版「生きる力３」

２　ねらい　さと子の鍵を探し続けるみんなの気持ちを考えることを通して、相手のことを考えて助け合うことの良さに気付き、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

３　本時の指導

（１）準備：場面絵、ワークシート

（２）指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学　習　活　動 | ・教師の支援　〇評価 |
| つ  か  む  5分 | １．クラスの友達を助けた経験について話す。  困っているクラスの友達を助けたことがありますか  ・友達に消しゴムを貸してあげた。  ・保健室に連れて行ってあげた。 | ・経験を聞く。  ・どうして助けたのかと理由を問うことで本時のテーマにつなげていくようにする。 |
| ふ  か  め  る  35  分 | ２　「クラスの友達と助け合うこと」について話し合う。  (1)場面絵を見ながら、朗読音声による範読を聞く。  (2)教材の内容を簡単に整理する。  ・さと子たちは遠足に出かけた。  ・さと子は家の鍵をなくしたことに気付く。  ・女の子達が一緒に鍵を探す。  ・男の子達も後から一緒に探す。  ・さと子の鍵が見つかる。  (3)教材をもとに「友達と助け合うこと」について話し合う。  どうして男の子たちはさと子の鍵を探そうと思ったのだろう  （自分たち視点）  ・面倒だけど、みんなが探すから自分も探すことにした。  ・みんなで一緒に遊んだ方が楽しい。早く見つけたら、みんなで遊べる。  ・自分も助けてもらったことがある。  （相手視点）  ・鍵をなくしたなんて大変なことだ。さと子がおこられてしまう。かわいそうだ。  ・クラスの友達のさと子が困っているから、助けようと思った。  ・女の子だけじゃ探しきれない。  ・遊びはいつでもできる。  ・さと子を放っておけないと思った。さと子が困っているのに自分たちだけ遊んでいられない。そんな自分は恥ずかしい。  さと子のクラスの子どもたちはどんなことに気付いたのだろう  ・男の子も女の子も関係なく、仲良くできるといい。  ・友達と助け合うともっと仲良くなれるから、今よりもっと仲良しなクラスになっていく。  ・一人でできないことも友達がいるとできることもある。  ・助けてもらった子も助けてあげた子もうれしい気持ちになれる。 | ・机上には何もない状態にし、集中して話が聞けるようにする。  ・話の展開が理解しやすいように、場面絵を黒板にはりながら、音声朗読を流す。  ・遠足を知らない児童もいると思われるの　　　で、事前に遠足について触れておく。  ・ワークシートに自分の考えを書かせる。  ・面倒だと思う気持ちもあることを共感する。他の児童にも、問い返す。  ・自分たち視点、相手視点、が分かるよう　　に分類して板書する。  キーとなる言葉  ・さと子のことを考える。  ・助けてあげたい気持ち。  ・助け合うとさとこもうれしいし、自分達　もうれしい。  ・ねらいとする価値について深く考えさせる。 |
| まとめる　5分 | ３　本時の学習を振り返る。  ・困っている友達がいたら、友達のことを考えて、みんなで力を合わせて助け合えるとよいと分かったよ。  ・男の子も女の子も関係なく助け合うととよいと思ったよ。男の子も女の子も大事な友達だね。そうするともっともっと仲がよいクラスになると思ったよ。  ・助けてもらうとうれしいし、助けてあげて、友達がうれしいと自分もうれしくなるね。 | ・今日の授業で分かったこと、新しく気付いたことを書かせる。机間指導をしながら、考えがまとまらない子に板書を見ることを促したり、道徳的価値の高い内容に触れている子をほめたりする。  ・友達の考えを聞き、振り返ることで、本時での新しい気付きや学びを確かなものとする。  〇男女関係なく、相手のことを考えて助け合うことが大切であると気付き、友達と仲良くしようとする心情がもてたか。  （ワークシート、発言） |

（３）評価

・男女関係なく、相手のことを考えて助け合うことが大切であると気付き、友達と仲良くしようとする心情がもてたか。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ワークシート、発言）

４　主発問分析

どうして男の子たちはさと子の鍵を探そうと思ったのだろう

予想される児童の意見、問い返し発問

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教材 | ・女の子たちが河原へ向かうのが気になったが、男の子たちは自分たちだけで遊ぼうとする。  ・先生からわけを聞き、女の子たちが河原へ行った事情（さと子の鍵を探しに行ったこと）を知り、けんたの一言で、男の子達も一緒に鍵を探すことにした。  ・みんなで横一列に並び、砂まみれになりながら、さと子の鍵を探し、鍵が見つかる。 | |
| 価値への高まり | （自分たち視点）  ・面倒だけど、みんなが探すから自分も探すことにした。  ・みんなで一緒に遊んだ方が楽しい。早く見つけたら、みんなで遊べる。  ・自分も助けてもらったことがある。  ・自分が困ったとき、助けてもらえないかもしれない。  （相手視点）  ・鍵をなくしたなんて大変なことだ。さと子がおこられてしまう。かわいそうだ。  ・クラスの友達のさと子が困っているから、助けようと思った。  ・遊びはいつでもできる。  ・さと子を放っておけないと思った。さと子が困っているのに自分たちだけ遊んでいられない。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→　友達が困っていたら、助けるんだね。  初めからみんなは鍵を探してあげようと思ったのですか  ・さと子は女の子だから、自分たちにはあまり関係ないと思った。  ・せっかく遠足に来ているから、そこでしかできない遊びがしたいと思った。遠足は１年に　　１回しかない。  ・一緒に探すのはめんどうだと思った。  　　　　　　　→　初めからみんなに探そうという気持ちがあったわけではないんだね。  困っている友達に男の子とか女の子とか関係ありますか  ・男の子も女の子も関係ない。どちらも友達。  　　　　　　　　→　男の子も女の子も、どちらも友達であることには変わりないのだね。  鍵が見つかって喜んでいるのは誰だろう  ・さと子  ・一緒に探していた友達みんな。　　　　　　　→　探していた友達も喜んでいるんだね。 | |
| ねらいとする価値 | ・友達同士互いに力を合わせ、助け合おうとする。 | |
| 第1学年及び第2学年 | | 友達と仲良くし、助け合うこと。 |
| 第3学年及び第4学年 | | 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。 |
| 第5学年及び第6学年 | | 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても信頼しながら、人間関係を築いていくこと。 |